

伝統の技 蒔絵・螺鈿（体験）

— 長崎螺鈿と蒔絵による文鎮作り —

講師 = 加藤 ^{カトウ} 寛 ^{ヒロシ} (本学文学部教授)

時間 = 13:30 ~ 15:30

受講定員 = 20人

受講料 = 12,000円

テキスト：オリジナルのテキストを配付します。

教材費：(蒔絵用小筆) ¥5,000

材料費：(螺鈿用薄貝・金粉ほか) ¥5,000

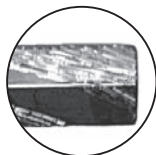
[教材費・材料費は第1回受付で集めます。]

ご持参いただくもの：エプロン

※継続受講の方などで、蒔絵用小筆をすでにお持ちの方は、「セミナー応募ハガキ」の備考欄に“小筆不要”と記入し、当日必ずご持参ください。

スケジュール

- ① 11月 2日 (月) 金属の漆焼付け・長崎螺鈿作り
- ② 11月 9日 (月) 螺鈿貼り付け
- ③ 11月16日 (月) 螺鈿貼り付け・蒔絵
- ④ 11月30日 (月) 漆塗り込み
- ⑤ 12月 7日 (月) 研ぎ出し
- ⑥ 12月14日 (月) 磨き・完成



作品例

講座内容

書道用の文房具の中で傑作の少ないのは文鎮です。今回、金属に漆を塗り、熱変性させて固めた漆の上に蒔絵・螺鈿などで文様を作ろうと思います。螺鈿は、かつて日本が世界中に輸出した青貝細工という手法で作ります。青貝細工は別名長崎螺鈿とも呼び、鮑の薄い貝の裏側を染料で染め上げたあとに銀箔を貼り、たがねで打ち抜いて文様とします。世界で一本だけの My 文鎮を作ませんか。

講師プロフィール

1976年東京藝術大学大学院修士課程美術研究科漆芸専攻修了。
1990年東京国立博物館資料第一研究室長、1998年東京国立文化財研究所修復技術部第一研究室長、2005年東京国立文化財研究所修復技術部長を経て、2007年より鶴見大学文学部文化財学科教授。